

お陰様で日本ライフ株式会社は設立 45 年を迎えました。皆様に心より感謝申し上げます。

さんけん

2019 No.65

平成 31 年 1 月 1 日発行

ネットワークニュース

発行人：三健ネット会 会長 門馬 義芳 日本ライフ株式会社 社長 門馬義幸
三健ネット会事務局 日本ライフ株式会社 〒201-0002 東京都狛江市東野川 1 丁目 3 4 番 1 4 号
TEL03-3488-8700 FAX03-3488-9921 <http://www//nihonlife.co.jp/> Eメール:mail@nihonlife.co.jp

三健（さんけん）とは健土・健食・健民

三健ネット会は、人間の幸せは健康にありとの考えから、人みな健康で豊かであることを願い、「健康な土から健康な食物を、それを食して心身ともに健全な国民をつくる」を基本理念にしています。この理念を広く皆様にご提唱し、ご理解とご協力をいただき、普及によって健康と健全な社会、地球にやさしい環境づくりに貢献していきたいと願っております。

微生物資材について思う

三健ネット会事務局 門馬義幸

恭賀新年

年頭にあたり皆様のご健勝を
心からお祈り申し上げます

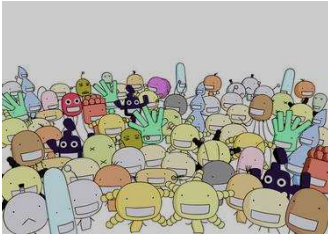
日本ほど日常生活に微生物が関わっている国はないと思います。日常の食事を見ても、納豆、味噌、醤油、漬物、甘酒、日本酒、焼酎など微生物を利用した身近な食品をあげることができます。

腸内細菌も注目され、乳酸菌、ビフィズス菌、納豆菌などが含まれているヨーグルトや納豆などを以前よりも多くの方が摂取

するようになりました。人間の腸の内壁に住みついている腸内細菌は現在判明しているだけで、数百種類、総個数は成人で 100 兆個、重さにして 1 kg になるという試算があります。健康体では糞便の 4 分の 1 から 3 分の 1 が死菌体、すなわち菌の死体です。腸内環境が悪化すると、下痢や消化不良を起こすことも知られるようになりました。

農地も同じです。健康な農地には 1 g の土の中に 100 億もの微生物が住んでおり、健全な農地では 10 a (300 坪) あたり、700kg の微生物が住んでいるという試算がありま





す。20年前には
1 g 中、1 億個、
数年前まで 10

億個、最近の研究では 100 億個あるいはそれ以上微生物がいることがわかってきました。農地における善玉菌の重要性が認識されてきました。『現代農業』最新号（2019年1月号）では「農家は菌と仲良しだ」で 64 ページにもわたる特集を組んでいます。内容は微生物（こうじ菌、納豆菌、放線菌、乳酸菌、光合成細菌、酵母菌）の働きの説明から土着菌の話、菌での防除など多岐にわたっています。

では農業用微生物資材はどうでしょうか。海外に目を向けてみると、アジア、欧米の各国で微生物資材が注目され、着実に伸びています。特に中国では農業用微生物資材の発展の速さは驚異的です。茅洪新氏（井上政商店）によれば 2016 年 6 月時点で、企業総数が 1,100 で、登録製品数が 2,752 であったのが、その約 1 年後の 2017 年 7 月には製品数が 3,489 になりました。農業用微生物資材の規格や認証管理体系が確立され、農業用微生物資材がすでにバイオ産業の重要な部分になりつつあります。

日本ではどうなのでしょう。日本では

農業用微生物資材を扱う会社は 100 社とも 200 社とも言われていますが、製品数を含め、正確な数字はつかめていません。VA 菌根菌資材は微生物資材で唯一政令指定土壌改良資材ですが、その供給量は停滞しています。平成 21 年に 15 トン供給されていたものが、平成 25 年には 6 トンになり、平成 28 年に 8 トンになったものの、翌平成 29 年には 6 トンになってしまいました。

横山正氏（東京農工大学教授）は「世界の年間バイオ肥料マーケットの年平均成長率は 13.9%と予測されており、現在世界規模で 1,000 億円前後の売り上げが報告されている。また、2020 年には市場規模は 2016 年の 2 倍になると期待されている。」と述べています。日本はまだ世界の流れに追いついていないように思えます。しかしながら、農業において、微生物の重要性が認識されるようになった今日、次の段階は微生物資材の役割を伝えていくことだと思います。おなかの調子を整えるのに、ヨーグルトや納豆などを食べるように、活力を失った土を蘇らせるために投入するのが微生物資材です。『最新農業技術 土壌施肥 vol.10』（農文協 2018 年 3 月発行）では微生物資材

と肥料・土壌改良材が特集され、弊社の「アーゼロン・C」をはじめ、21社の微生物資材が紹介されました。今年は平成から新しい年号に移ります。弊社の社是、「健土、健食、健民」の理念に立ち返り、アーゼロン・Cをはじめとする微生物資材の普及に今まで以上に務めていく所存です。今年もよろしく願いいたします。

酒井様ご夫妻のトマト

酒井陽臣様と奥様の栄子様は長年アーゼロン・Cをお使いになり、南郷トマトを栽培をされています。10月17日にご夫妻から、お手紙とトマトが日本ライフ㈱に届きました。お手紙を紹介させていただきます。

「日本ライフ様

お世話になっております。いつもありがとうございます。

今年も美味しいトマトができましたので、少しですが皆さんで召し上がってください。

家の前の国道沿いで直売をやっておりますが、とても評判がよく、遠くからわざわざ来ていただいています。『他のトマトは食

べられない』と、他にも直売所があるにも関わらず、我が家のトマトをお求めいただいています。これもアーゼロンのおかげと、とても喜んでおります。気温が下がる今の時期が美味しさを増し、アーゼロンと相まって自慢できる味に仕上がっています。そして味ばかりでなく、今の時期にこれだけ大ぶりのトマトは珍しいほどです。

今後共よろしく願いいたします。

末筆ながら益々のご繁栄をお祈りいたします。

酒井」



いただいたトマトは、見た目はまだ青かったのですが、届いたその日にいただきました。トマトの外側は赤くなかったのに、中は赤く、甘く、酸味もあり、とても美味しいのにびっくりしました。酒井様のお話では、この時期のトマトは外側が赤く熟すまで待つ必要はないとのことでした。夏のトマトは外側から赤くなりますが、夜温が

下がる秋のトマトは中から赤くなります。甘く、触感もよく、気温の寒暖差もあるため、1年で一番美味しくなるそうです。

今年の夏は異常な暑さで収量、大きさ等大打撃を受けた農家さんが多い中、これだけ大きなトマトになったことを大変喜んでおられました。

この時期になると他の農家さんはトマトの収穫が終了間際とのことでしたが、ご夫妻のトマトはまだまだ収穫できているとのことでした。また、トマトを栽培している職場はとても明るく元気で、楽しく栽培されているそうです。このような職場の環境もトマトの美味しさに通じているのだと思いました。

(門馬義幸)

我が家の花壇は ミミズがいっぱい!



大内弓子

私は古い土を再生するのに、ポ

リ容器の中に古い土とアーゼロン・C、米ぬかを混ぜ、水をかけて2～3週間寝かせ

ます。

花を植え替える時、その再生土を使いますが、ポリ容器の中をシャベルで一掘りすると、写真のように、シマミミズ、フトミミズがわんさと出てきます。はじめはとても気味悪く思い、箸でつまんで外に出していました。しかし、2004年8月発行の「さんけんネットワークニュース」(No. 22)の“ミミズの働きを考える”を読んで、百八十度考えが変わりました。以下に抜粋します。

『昔からミミズは畑の守り神と言われていた。私達が畑で目にするミミズはシマミミズとフトミミズの2種である。シマミミズは別名「堆肥ミミズ」と呼ばれており、有機物だけを食べ、フトミミズは土と有機物を食べる。ミミズの糞には窒素、リン酸、カリウムなど作物に必要な養分が含まれている。またミミズの糞は団粒そのもののため、土壌の改良にも大きな役割を果たしている。ミミズが直接病原菌を食べたり、悪玉菌の生活条件を悪化させる場合もある。おまけに死んでもミミズは即効性肥料になるのだから、まさに自然界のスーパースターといえるだろう。』

この事を知ってからというもの、ミミズがとても可愛く思えるようになりました。こんな素晴らしい働きをしてくれるミミズを大切にしていこうとも思いました。

多くの有効微生物が入ったアーゼロン・Cとミミズのおかげで、四季を通して美しい花々を長く楽しむことが本当に幸せです。



会員の声

スイカが たくさん取れました

私どもも小玉スイカに挑戦したのですが、4株でなんと14個も収穫できました！まだ3個育っています。レジャー農園の皆さんから驚かれています。アーゼロン・Cのおかげです。(M.S.さん 埼玉 2018年8月)

アサガオが 11月まで咲いた

例年通り西洋アサガオの白と青の種をまいたところ、白い花はいつも通り8～9月ごろまで咲いたのですが、青い花は一向に咲いてくれませんでした。「西洋アサガオは晩秋まで楽しめるといっても今年はまだ無理かな。白い方の種を取ったら片づけよう。」と思っていたところ、なんと10月から咲き始めました。その後、青い花は11月の中ごろまで咲き続けました。寒い時期のアサガオは開花時間が長くなり、2～3日咲いています。なので花数が多くなり、なかなかの見応えです。今年の夏はアサガオも暑さを避けたのでしょうか。青い花に見とれて、白い花の種は取り損ねました。西洋アサガオは種が取れないと言いますが、いつも取っていたので残念です。

(東京都M.K.)



10月末ごろの写真です

雑草始末記

今までは雑草は根こそぎ除去していません。昨年、初めての試みで、畝と畝の間は雑草を抜かず、草丈5cmぐらいのところ刈り取り、雑草の下部を残しました。乾燥を防ぐためです。7月は雨がほとんど降らず、気温も35℃～37℃が何日も続いたこともあり、雑草の成長も想定内で、週末菜園でも十分に対応できました。ところが、8月に入り、かなり雨が降るようになりました。2週間程畑に行けない日がありました。雨が多量に降ったこともあり、通路に生えた雑草はあっという間に繁茂していました。雑草はメヒシバ、オヒシバ、カヤツリグサ、オオアレチノギク、スベリヒユなどです。畝はスベリヒユなどで枯草マルチをしていましたが、雨のおかげで復活し、根づいてしまうものも出て来ました（このスベリヒ

ユを食べる地域があります。漢方としても知られており、栄養価も高いそうです）。

生い茂った雑草は鎌では取りきれないので、軍手をつけて力いっぱい引き抜きました。引き抜いた雑草は畑の隅で重ねたり、土中にすきこんで堆肥にしました。

通路の雑草のおかげで、土はある程度、湿度を保つことができたのですが、2週間以上家庭菜園に通えない場合には、雑草が繁茂しすぎて、処理が大変なことがわかりました。今年からは今までどおり、雑草はこまめに取り除くことにします。(Y. M.)



編集後記

昨年は世界中が天候にほんろうされた一年でした。地球の温暖化が私たちの想像を超える影響を及ぼしているようです。台風の被害も北海道から沖縄まで深刻なものでした。人類全体で考え、取り組まなくてはいけないと思います。

Y. M.)

若者用語（短縮言葉）を聞いてみると、外国語を話しているかのように聞こえます。日本語の美しい奥行のある意味を次世代に残していきたい。そのためにもっと勉強し、丁寧な言葉を発したいと決意を固める新年です。

Y. O.)

設定のため遠隔操作されているパソコンを初めて見ました。画面がどんどん変わっていきます。パソコンやスマホが乗っ取られて、遠隔操作により悪用されたニュースをよく聞きますが、今はこんな使い方もできるのかと感心。ただ、一人で動くパソコン画面は怖かったです。

K. I.)

